

● 地域提案型

平成23年度 採択内定案件

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 国名	インドネシア
2. 事業名	住民参加型一般廃棄物処理技術開発普及事業
3. 事業の背景と必要性	デボック市は年率10%で人口が増加し、廃棄物処理、教育環境の状況が悪化している。そこで大崎町では、2010年に廃棄物の資源化とリサイクル活動を取り入れた国際協カイニシアチブ事業を実施し、その活動をデボック市全体に継続拡大することになった。廃棄物の持続可能な処理システムの構築のために低コストの大崎町の非焼却型廃棄物処理システムを採用し処理能力と資源活用能力を向上し、廃棄物回収関係者の経済・教育環境を地域と一体的に改善する必要がある。
4. プロジェクト目標	廃棄物の減量化を目的にデボック市内のモデル地区で生ゴミ等の分別排出・収集・運搬・胥吏のシステムづくりを目指し、リサイクル普及指導員の育成など人材育成に重点を置き、意識改革により市内全域に「混ぜればゴミ分ければ資源」の取組みが波及する。
5. 対象地域	インドネシア国デボック市のモデル地区 (Community of "PokLili", UPS (Garbage Processing Unit) Jin Merdeka 2, UPS Cipayung)
6. 受益者層 (人数規模)	地域コミュニティー組織 (モデルサイト住民302世帯) 及び廃棄物処理関係者
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普及指導員の育成               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大崎町で大崎モデル資源化研修会を開催し普及指導員を育成する。</li> </ol> </li> <li>2. 職員及び市民の意識改革               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大崎モデルの取組み内容を住民に説明するため大崎町よりデボック市にゴミ資源化の専門員等を派遣する。</li> <li>2. デボック市の廃棄物担当者の研修会を開催する。</li> </ol> </li> <li>3. リサイクルシステムづくり               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゴミ資源化に向けたシステム構築を図るため、デボック市から研修員を年2回3年間大崎町に受け入れて研修させる。</li> </ol> </li> <li>4. 生ごみの分別収集・資源化               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. モデル地区での分別収集・資源化に着手する。</li> <li>2. 生ゴミ資源化ヘリサイクル施設の充実を図り堆肥化に着手する。</li> <li>3. 非焼却型のゴミ処理計画を検討する。</li> </ol> </li> <li>5. ゴミの減量化               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生ごみ堆肥化など廃棄物の処理計画を検討し埋立て処分量の減量化で処分場の延命化を図る。</li> </ol> </li> <li>6. 研修体制の強化               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インドネシア大学と連携し市民及び学校向けのゴミ関連の環境教育を定期的に開催する。</li> </ol> </li> </ol>
8. 実施期間	2012年5月～2015年2月
9. 事業費概算額	29,109千円
10. 事業の実施体制	デボック市を相手国実施機関 (カウンターパート機関)、大崎町が本邦側実施機関として実施。ただし、現地側ではインドネシア大学、本邦側では鹿児島大学からの技術的支援を得る実施体制とする
<b>II. 実施団体の概要</b>	
1. 団体名 (提案自治体)	鹿児島県大崎町
2. 対象国との関係、協力実績	2010年に国際協カイニシアチブ事業をデボック市で実施した。2011年2月に国際交流協定締結の覚書を調印した。2011年9月に町長と関係者がデボック市を訪問し技術協力関係を確認した。